市指定文化財<史跡>

指定日　昭和49年4月1日

亀尾城跡（かめおじょうあと）

所在地　菊池市七城町亀尾　板井・前川

七城町亀尾、前川地区の南台地に熊野権現神社が鎮座し、神社の北側の山林高台が城跡である。中世の頃からは板井の地区名をとって板井城と呼んでいた。

この城が菊池氏により整備され、菊池本城の南西方面の重要な拠点として活躍したことが伺える。

この地は花房台地の中央を横断する板井川の北縁にあたる交通の要衝で、行政の地でもあった。

当初この城の城主は板井氏で、鎌倉時代に相良氏がこの地に入り板井氏を名乗り、菊池の傘下に入ったとされる。しかしその後21代重朝のときに催された「菊池万句連歌」の際には、城主として関部氏の名が見える。

南北朝時代には軍事上の要地となり、九州探題今川了俊とその子仲秋が菊池攻略の拠点として万を超える大軍を2年に亘り駐屯（ちゅうとん）させたことがある。

城跡は県による発掘調査の実施後に公園整備され、豊前壕（ぶぜんぼり）や曲輪（くるわ）が復元されている。